

【家庭数配布】

小中一貫校 南アルプス市立白根飯野小学校

学校だより



【学校教育目標】

～ 郷土を愛し、たくましく生きぬく子ども ～

【9年間で目指す児童像】

～ 思いやり、創造力、すこやかな体を持ち、

未来を担う 白根こまっ子 ～

令和8年1月29日 No16 文責 保坂 泉(校長)

アツという間に1月が終わります！

つい先日3学期が始まったと思っていたら、もう月末になってしまい1月が終わろうとしています。穏やかな晴天で迎えた令和8年も、昨今は大寒寒波の襲来で、毎朝、肌を刺すような寒さの氷点下の日々になっています。この寒さは、まだまだ続くことと思います。私たち大人も子供たちに負けないよう、寒さに負けず元気に過ごしていきましょう！

～ ちょっと心配です ～

寒さに加えて空気も乾燥しています。こんな時期に心配されるのはインフルエンザの流行です。本校でも、先週からインフルエンザでお休みする児童が出始め、徐々に広がりを見せて、先週末に1学級、今週になって3学級がインフルエンザによる学級閉鎖の措置をとることになってしまいました。主に“A型”に罹患する児童が多いですが、“B型”に罹患してしまった児童も見られ

ます。現在は、大きな広がりを見せる様子もなく小康状態を保っているという状況です。山梨県中北地域の様子を見ると、“警報”レベルにあります。気を緩めると罹患のリスクが高まります。コロナ禍で培った予防策「うがい」「手洗い」「マスク着用」「人ごみを避ける」等を生かして、この時期を乗り切っていただきたいと思います。学級閉鎖により、学校は登校する児童の数が少なくなりました。教室からは元気な声も聞かれず寂しい日々でした。児童がいてこそその学校です。お子様が元気に登校できるよう、ご家庭での健康管理へのご協力をよろしくお願いいたします。

頼もしくなってきたぞ 5年生！

3学期はとても短いです。そんな中でも次年度に向けての取組を行っています。特に5年生に求められる期待は大きいものがあります。それに応えるべく、多くの職員から励まされ、認められながら、その責任の重さを自覚しながら日々を過ごしているところです。最近の5年生の顔つきを見てみると、男女ともに引き締まった顔つきになってきました。いつまでも世話を焼かれるような立場ではなく、自分たちが世話をする立場になったんだという気持ちが表れています。6年生に代わって、たて割り遊びを計画したり、「6年生を送る会」の取組を始めたりしていることが引き金になっているのでしょう。一人一人が役割を背負い、仲間と協力して行っていくことの難しさや大切さを学んでいます。試行錯誤し成功と失敗を重ねながら次に繋げられる意欲をもてるようにすることが、今の時期は大切です。5年生が、6年生から信頼されて次年度へのバトンタッチされることを信じています。これからも5年生の成長ぶりを注視して見守っていきます。

これからの飯野小は みなさんにかかっています！



来入見に向けた入学説明会が行われました

先日、令和8年度に入学される保護者を対象に入学説明会を行いました。来年度入学される児童の数は35名です。今年度卒業する6年生が42名ですので、令和8年度の児童数は7名減少することになります。今年度も昨年度と比べると児童数が減少していたので、この傾向は、ちょっと寂しく感じてしまいます。

さて、会の冒頭に校長から話をする機会をいただきました。その中で、学校教育目標、来年度の学校経営方針、育みたい目指す児童像について話をいたしました。知・徳・体のバランスが取れるよう「相手の気持ちが思いやれる子ども」「対話し、学び、わかちあう子ども」「みんなと支え合い、ともに働く子ども」の育成を基本に教育活動を進めていることとお話ししたところで、また、学校は集団生活を通して、社会性を学ぶ場でもあることもお話ししました。学校は、それぞれ違う思いをもった人が生活しているのですから、すべてが自分の思い通りになる場ではありません。その場の状況であったり、周囲の相手がどのように感じたり考えたりしているかであったり、目的がなんであったりするかを考えて行動できるようにすることを学ぶところになります。自分の思うようにできるときもあるかもしれませんが、時には我慢しなければならない時もあるはずで、学校は、その折り合いがつけられるような心の柔軟性を養う場であるというお話をさせていただいたところです。来入見だけに限らず、どんな学年の児童にも発達段階に見合った心と体の成長を遂げていってもらえることを願っています。

みんな力作ぞろいです！（書きぞめ大会）

冬休みも明けて、各学年で「書きぞめ」大会を行いました。きっと、どの児童も冬休み中にたくさん練習を重ねてきたことと思います。これまでの積み重ねてきた練習の成果を発揮しようとした作品ばかりでした。自信をもって書き進めた字、手本に忠実に緊張感が表れている字、自分らしさを表した字を見て、集中して書いている様子が目に浮かびました。きっと、書き終わった後は、ホッとして疲れがドッと出てしまったことではないかと想像しています。それぞれの学年で審査を行ったところですが、担任の先生方は選考に苦慮したのではないかと思います。いくつかの学年の審査に私も加わらせてもらいましたが、甲乙つけがたい作品ばかりで嬉しい悲鳴を上げてしまいました。ちなみに飯野小学校で県特選に入賞した児童は各学年にいて、その数は13名に上ります。それ以外にも、支部入選、校内入選の児童もおり、頑張った成果を認められるよい機会となりました。表彰については、2月に行われる集会等で行う予定です。

【校長の独り言・・・】 ～ 書くことに思う・・・ ～

1人1台端末が普及してから、キーボードで打ち込む作業が多くなりました。たしかに、今の時代やこれからの時代には、PCはなくてはならないものですし、それを使うには、当然キーボードで打ち込む作業は必要になります。しかし・・・、「そればかりを頼っていいのかなあ。」と感じている自分がいます。今振り返ってみると、担任時代（1人1台端末なんて程遠い、PCが少しずつ普及され始めたころです。）、子供たちにノートにたくさんのことを書かせていたなあと思います。そして、班日記と称して、日ごと順番に書いてもらって子供たちの考えていることを知ったり、こちらの思いを伝えたりしていました。それに加えて、毎日、ノートに1ページの漢字練習を宿題として出してきました。だから、子供たちは、今の時代の何倍も書いていたと思います。子供たちが提出した宿題や班日記、授業中のノートを見ると、書かれている文字やノートの取り方から伝わってくるものがあります。授業が楽しかったのかつまらなかったのか、理解できていたのかそうでなかったのか、落ち着いて取り組めたのか、慌てて取り組んだのか、嫌々取り組んだのか、多くの情報が文字やページ全体から伝わってくるのです。表現力は拙くても書いた文字から伝えられることを大事に読み取ってあげることが楽しかったです。

決して今のやり方を否定するわけではありません。でも、書くことを通して得られることもあることは忘れてはならないと思っています。